

来週の「売り物記事」はこれ



2017年1月27日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

袴田巖さん 現実と妄想の狭間で

29日(日)



静岡県清水市(現静岡市清水区)で1966年、「こがね味噌」の専務宅から出火し、焼け跡から家族4人の遺体が見つかった「袴田事件」。強盗殺人と放火の罪などで死刑が確定した後、2014年の再審開始決定を受け、袴田巖元被告(80)＝写真＝が釈放されてもうすぐ3年が経過します。当初は能面のような顔に年相応のしわが刻まれ、喜怒哀楽を少しずつ表すようにもなりました。姉の秀子さん(83)は「3年間でだいぶ変わった」と言います。しかし、1万7388日に及んだ拘禁と死刑の恐怖は袴田さんの精神を奥底までむしばみました。少しでも事件に触れると、「そんなもの、ありやせん。4人は生きている」。受け入れがたい現実と死の恐怖から逃れるため、袴田さんは心を閉じ込めたのか。精神世界は今も、現実と妄想の狭間を漂います。釈放前から2人と交流を続けてきた記者が、袴田さんと秀子さんの「現在」を報告します。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

真実ではなくデマが世界を動かす？

「ポスト・トゥルース」時代の危うさ

夕刊特集ワイド 30日(月)



「ポスト・トゥルース」という言葉をよく耳にします。世論がつけられる過程で、感情や信念などが優先され、真実や客観的事実は二の次にされる状況…とされます。英国のEU離脱を巡る国民投票やトランプ氏が当選した米大統領選では虚偽情報がまかり通り、日本でも、沖縄の米軍施設建設反対運動について、テレビのニュース番組が正確さに疑問のある伝え方をして問題になっています。この状況を放置していいのか。考えました。

親ありて・高嶋ちさ子さんの父 くらしナビA面 2月1日(水)

バイオリニストの高嶋ちさ子さん(48)＝写真＝は、クラシックファンの裾野を広げるべく多彩な演奏活動を繰り広げています。歯に衣着せぬ発言でバラエティー番組を盛り上げる特異なキャラクターは、どのような環境から生まれたのでしょうか。父の高嶋弘之さん(82)に聞きました。「小学校では極度のガキ大将だった」という背景には、ダウン症の姉の存在がありました。



かごを活用する

くらしナビA面 31日(火)



工業製品があふれる現代の暮らし。室内に一つでも自然のものがあるとほっとします。つる性植物や竹で編まれた「かご」は日常に取り入れやすく、小物を入れ替えるだけでインテリアにもなります。天然素材の手作りがごを扱う専門店の店主は「かごの魅力は、作られた土地の文化や暮らしを映し出していること」と指摘しています。すてきな活用法を紹介します。



「もしお年玉をもらえたら」をテーマに投稿を募ったところ、戦後の混乱期だった子ども頃はお年玉をもらえなかったけれど、今では息子や娘からもらえるようになり、もったいなくて使えないという内容の投稿が多数寄せられました。「もらえない」と嘆きつつ妄想を膨らませてくださった方も。あるある、そうよね、と楽しくお読みください。



東京都政のジャンヌ・ダルクか、それとも女帝か……

「小池劇場」半年 【評価と課題】 (大)

オピニオン面 【論点】 2月1日(水)



「東京大改革」を掲げて当選した東京都の小池百合子知事＝写真＝が誕生してから半年がたちます。新年度予算で待機児童対策などに力を入れるなど小池カラーを打ち出しますが、延期を決めた豊洲新市場の開場は宙に浮いたまま。一方で7月の都議選に向け、古巣である自民党との対決姿勢を強めています。都政改革はどこに向かうのか。「小池劇場」の評価と課題を論じます。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。